



NDYS in Action, Newsletter

- 防災世界子ども会議 (Natural Disaster Youth Summit) -

Vol#1
January 17, 2008

神戸より、こんにちは！

NDYS 事務局：〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1
ひょうご国際プラザ活動支援室気付
NPO 法人 グローバルプロジェクト
推進機構 JEARN 事務所内

トピックス

世界の防災グッズと防災の知恵
HAT 神戸+防災 EXPO



NDYS ユース編集局

防災 EXPO

現在、防災 EXPO が神戸で開催されています。期間は 2008 年 1 月 9 日から 20 日までの 12 日間です。この EXPO は、世界中の災害を防ぐための知恵や設備を集めています。災害についての知識を深められるゲームや、自然災害を予防するための取り組みの紹介などがなされています。阪神・淡路大震災から 13 年がたちました。今、最先端の防災の知恵が世界中から神戸に集まっています。

NDYS はこの EXPO に参加しています。世界中の NDYS に参加した生徒たちの防災への様々な取り組みが紹介されています。この展示は、人と防災未来センター・防災未来館 2 階で実施中です。

NDYS のプロジェクトは、今、新しい局面に入ろうとしています。トリニダード・トバゴの会議に向かって動き出しているのです。



一人の日本の高校生である私は、EXPO を訪ねました。そこには、見切ることが出来ないほど多くの最新の知恵が詰まっていました。私自身は、NDYS の活動の重要性を再認識することができました。それは、NDYS が、これから新しい社会を構成していく世界中の「若者」、をつなぐものであるということです。私たちは、若者として、自然災害についての知識を交換するという大きな責任があると感じました。その知恵は最先端の技術ではなく、災害に直面したときに私たちを助けてくれるかもしれない各国の生活の知恵です。NDYS をはじめたことはとても重要なことです。それにより、世界中にいるもっと多くの若者達が、防災に興味を持つことが出来たからです。

もちろん、NDYS はこれからもっと発展していくでしょう。私は、この「ニュースレター」も NDYS にとって大きな一歩だと思っています。NDYS 自身も、私たちと同じように、とても若い組織です。私たちにとってやるべきことはいくらでもあるのです。

私は、この 4 月に日本で大学生になります。NDYS との関係はこれからも続いていくつもりです。NDYS は私に世界について考える機会を与えてくれました。今度は、私が NDYS を次の局面へと引っ張っていく番です。

(編集&翻訳: 加藤言人, 神戸, 日本)





トピックス

自然災害と防災

アルゼンチンの今

アルゼンチン・レポート

雷雨と恐怖



子どもとその母親達が安全な建物の中で食事の提供と、ヘルスチームの援助を受けています。

1月14日、激しい雷雨が、1,000人以上の貧しい人が住んでいる地域に大きな被害をもたらしました。人々は恐れ、隣人の家に逃げ込みました。警察とCCP(Center for the Citizen Protection)は彼らを、被災地域に近い安全な建物に避難させました。

電線が数本、風邪によって切断され、混乱に拍車をかけました。幸運なことに負傷者は出ませんでした。いくつかの家は深刻な被害を受けました。彼らの家は修理され、ベッドや衣服、衛生器具の提供を受けました。

CCP (Center for the Citizen Protection)は16:50から17:30かけての記録された雨量は45ミリだったと発表しました。気温は25時間の間に32.3℃から16℃と、最初の半分以下まで下がりました。

一部の人々は自宅を持っていましたが、そのうちの500人は土地を不法占拠していました。政府は解決策を模索しています。彼らの惨劇を防ぐために、広めの仮設住宅が建設予定です。



Main Council の Miguel Isa が二人の幼い子どもを救う警察を助けているところです。

El Tribuno' newspaper より写真を引用。

'El Tribuno' newspaper より写真を引用

編集: Sergio Daniel Paz
サルタ、アルゼンチン

イベント予定

この地球温暖化の時代に、減災のための知恵を世界中から集めよう！

防災世界子ども会議 2008 in トリニダード・トバゴ



防災世界子ども会議2008 in トリニダード・トバゴ



Abe Fergusson さんによる“自然災害”のホームページ。



安心・安全な社会を築くために、地域の災害安全マップをつくろう！

2005年に発生したハリケーン「カトリーナ」は、そこの住民にとって空前の大惨事をもたらしました。このような大規模な災害を生み出した地球温暖化は、長期にわたる干ばつ、大豪雨、頻繁な熱波の発生、猛烈な嵐などを引き起こしています。

トリニダード・トバゴで自然災害を経験した、Abe Fergusson さんは“自然災害 (Natural Disasters)”というホームページを開きました。

「若者として、母なる自然を大切にしたいと思っています。私は、グローバルなコミュニティとローカルなコミュニティをつなぐことによって、グローバルな視点から自然災害の被害を軽減できる将来がいつか実現できたらいいな、と思って NDYS に参加しています。

私たちは、お互いに意見交換をし、被害を最小減に食い止めるために協働（コラボレーション）しましょう。

従って、私たちは共に学ばなければなりません。トリニダード・トバゴでのアイアーン (iEARN) では、情報を交換し合います。そして、コミュニケーションの重要性を私と同じように感じている全ての人々にとっての教育の手段としてホームページを発展させたいと思っています。

私は UNICEF から、「気候変動と災害」についてインタビューを受けました。そして 2007 年 12 月、国連主催の国際気候変動枠組み条約の第 13 回締約国会議（温暖化防止バリ会議）にてビデオメッセージが紹介されました。そこで、私は、4 月に開催される「防災世界子ども会議 2008 in トリニダード・トバゴ」への参加の呼びかけをする機会を得ることが出来ました。」

(編集：NDYS 事務局)

神戸でのミーティング報告



私は、このニュースレターによって NDYS と深い係わり合いを持つことができ、光栄です。もっと多くの素晴らしいメンバーが参加してくれることを期待しています。

今回は、1 月 13 日に神戸で行われたミーティングについて報告します。私たちは、2008 年 3 月 10 日～30 日に行われる NDYS の展示と、3 月 23 日に開催されるフォーラムについて話し合いました。そこでは、世界の学校の取り組みが紹介される予定です。

当日は、とても有意義な時間を過ごすことができました。私はこのような機会を持つことはとても重要なことだと感じます。またこのようなミーティングの機会を持ちたいです (編集：芦田有未、大阪、日本)



コミュニケーションが命を救う！
<http://ndys.jearn.jp/>